

松平郷展望テラス

ここからは、松平家の歴史を語る上で重要な場所や、豊田市や愛知県西部の現代的なランドマークを見ることができる。

この山の下の谷間には、松平家の祖先が住んでいた松平郷がある。15 世紀に松平家はここから南や西の平野に勢力を拡大していった。その谷を越えたところに豊田市があり、豊田スタジアムの特徴的な梁や豊田大橋のアーチを背景に、豊田駅周辺にはビル群が立ち並んでいる。

その左手にはトヨタ自動車の本社ビルがあり、さらにその左手には矢作川に架かる 820 メートルの斜張橋、トヨタアローズブリッジがあり、その高い 2 本の鉄塔が特徴的だ。

右手、豊田市の向こうには、岐阜県と三重県の県境にある養老山地を背景にした名古屋の街が広がっている。名古屋市中心部の右手には、東山動植物園のランドマークである高さ 134m の「東山スカイタワー」がある。

名古屋から左手、水平線上の鈴鹿山脈の方向を見ると、晴れた日には伊勢湾が見えることもある。対岸の三重県には四日市市があり、夜になると石油化学工場の光が目飛び込んでくる。

左、三河湾の方面には岡崎市と安城市があり、16 世紀前半に松平家が岡崎城を本拠地として支配していた。1959 年に再建された岡崎城は、残念ながらここから肉眼で見ることが難しい。